

【心の目が開かれて・・・】

ルカによる福音書 24章

13 ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、

14 この一切の出来事について話し合っていた。

15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。

18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけをご存じなかったのですか。」

19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。」

20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

23 遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24 仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

ここに出てくる状況は先週の話の続きのような響きがあります。このふたりは恐れ、不安

そして何か裏切られたような気分で心が、いわばフリーズ状態になっています。

25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

イエス様から直接聖書全体からイエス様との関わりを聞けるとはなんと素晴らしいバイブルスタディでしょう。

それでも、それを聞いていながらも、彼らはイエス様とわからず、その内容もおそらくそれほど心には届いていないのではないかと思います。

私たちの心の中に入り込んでくる悲しみや恐れは本当に「重く」「心の扉をしっかりと閉じてしまう」ことがあるのです。

でも、イエス様は彼らを軽蔑することなく、語り続け、伝え続けておられます。

そして、夕食の場面で大きな変化が起こります。。

30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

「ふたりの目が開け、イエスだとわかった」と書かれています。

それは悲しみいっぱいの彼らがイエス様との晩餐を思い出したことに大きな原因があるかもしれません。同時に、イエス様が語り続けたその内容とその姿勢、態度のなかになんとも言えない「優しさ、誠実さ」が込められていたこともあるかと思います。

この二人は、イエス様による解き明しを聴きながら、心が燃えたのです。

それは、過去にも経験したことのあるものだったと思います。

イエス様が山で説教なされた時、湖のほとりで説教なされたとき、二人の心は同じように燃えたのだと思います。

そしてふたりは急いでエルサレムに戻ります。

33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、34 本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。

35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いて下さったときにイエスだと分かった次第を話した。

36 こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

37 彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。

38 そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。

39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」

40 こう言って、イエスは手と足をお見せになった。

41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。

42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、

43 イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

44 イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」

45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、

46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』

47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、

48 あなたがたはこれらのことの証人となる。

ここでも他の弟子たちの心の中に深く入り込んでいた恐れ、不安が浮き彫りにされています。

イエス様が突然そこに現れ、一緒に食事をし、二人の旅人の時と同じように聖書を解き明かします。

ここでは

45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、

46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』

47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、

48 あなたがたはこれらのことの証人となる。

と書かれていて、イエス様が彼らの心の目を開いて聖書を悟らせたことが書かれています。

聖書の本質を悟るという作業のためには「心の目が開かれる」必要があるようです。

しかし、これは修行とか修練によるのではなく、今の自分の現状の中に「心を

閉ざしている重荷や怒りや不安があるかどうか」をチェックし、まずは、それらを

イエス様にお伝えし、イエス様と自分自身が向き合う意識と時間を取る必要があります。

ここでは弟子たちに、かれらの使命を提示しています。

イエス様の十字架と復活、そして罪の赦し、悔い改めを伝える「証人」としての役割です。

しかし、その役割は弟子たちの努力や能力によるのではなく聖霊によって整えられ

そのお方の力によって前進するのだとイエス様は語っています。

そのお方の力にあずかるまでは、エルサレムに留まるようにと教えられます。

その間、弟子たちは、期待に胸を膨らませ、エルサレムの神殿で礼拝者として

整えられていきます。

49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっ
ていなさい。」

50 イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。

51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。

52 彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、

53 絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

ルカによる福音書は最初、祭司の不信仰の物語から始まります。。

そして使徒たちの使命を受けた期待と信仰の喜びで閉じられています。

この続きは「使徒言行録」に記録されています。

つまり、ルカによる福音書と使徒言行録はセットで読まれるべきものなのです。

さて、今朝のメッセージはあなたに何を伝えたでしょうか？

* * * *

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/zhEKQVJHgWk>